

## 令和2年度 活動報告書

団体名 K-style  
事業名 子育てママチア smile プロジェクト 2020

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

月に2回のチアインストラクターによるチアダンスレッスンと子育て中ママ達の情報交換の場をもつ予定でしたがコロナ感染拡大防止の観点から「みんなで集まって何かをする」ということが難しくなりました。そこでInstagramを利用しチアインストラクターによるInstagramライブ配信を開始しました。

毎回、レッスン内容に工夫を凝らしレッスン中もコメントを受け付けるなどしながら別々の場所においてもリアルに親近感がわくよう工夫して開催しました。また事前に質問や相談を受け付け、子どもチアダンス教室の経験豊富なインストラクターが講師目線で母親の質問や相談に答えるコーナーはとても反響がありました。

またチアダンスだけではなく、今年が東日本大震災から10年目を迎えるということで「防災」についてアンケートを取り、zoomを使って防災について思っていることや不安に思っていること、各家庭で出来る防災などを話し合いました。

この件については今後の活動に役立てられたらと思います。

緊急事態宣言が解除になってしばらくしてからの12月にママチアワークショップを開催しました。Instagramライブ配信で練習したダンスを会場で踊り、その様子をプロの撮影クルーに後日動画作成していただきました。現在youtubeでも配信しております。

[https://www.youtube.com/watch?v=xqQ\\_UBon4o](https://www.youtube.com/watch?v=xqQ_UBon4o)

### 2 活動の成果（区民、地域に還元されたと考えられること）

コロナ禍で当初予定していた活動はできませんでしたが、Instagramやyoutubeを利用し配信したことでたくさんの方にママチアを知ってもらえたと思います。プロの作成した動画は参加した母親達にとっても良い思い出となり、今後の子育ての励みになったのではないかと思います。

この取り組みは日本スポーツ協会が発行する「SportsJapan vol.53」と言う冊子にも取り上げられ全国にある総合型地域スポーツクラブにも広く周知されました。

### 3 活動してみたの課題（次年度以降改善すべきと感じられたことなど）

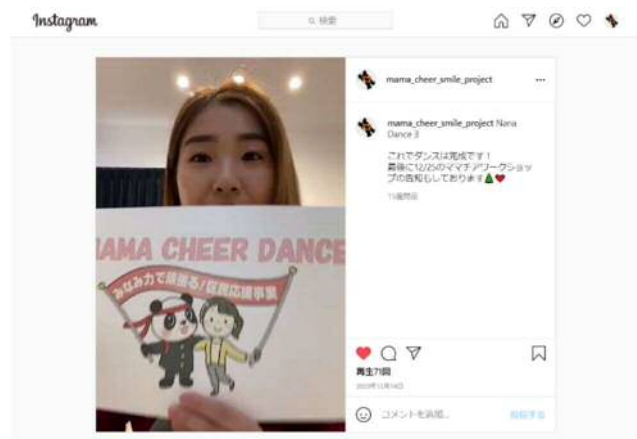
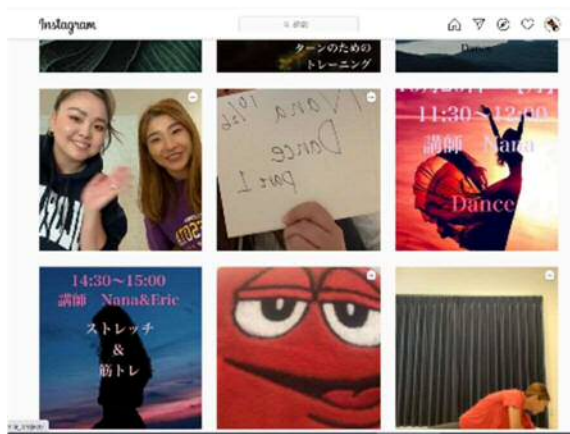
チアダンスはイベントステージに立ち、笑顔とダンスで観てくださっている方々を元気にするスポーツです。2020年度はコロナ禍の影響で残念ながら1度もイベントステージに立つ事が出来ませんでした。

今後もコロナ禍でどのように安心安全に活動するかが大きな課題となっています。

#### 4 今後の活動予定（自立的な活動に向けての取組予定など）

参加者は、またみんなで集まって一緒に踊ることが一番の目標でありモチベーションとなっているので出来る限りレッスンを開催したいと思います。イベントも安全に考慮しながら出来る限り参加し地域の方々に元気になってもらいたいです。

#### 【活動写真】



## 令和2年度 活動報告書

団体名 社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会

事業名 芸術家と協働で福祉施設を地域にひらく「ノガミッツプロジェクト」事業

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

地域資源である福祉施設を起点に文化芸術を介して地域の新たな関係性を創造するために、大きな柱として以下の3つの取り組みを行った。

① 「ノガミッツ ガーデン（東九条のぞみの園内の作庭）」

② 「アート作品制作・交流のアーカイブ作成」

③ 「展示会・発表会」

#### 【内容】

「ノガミッツガーデン」については、地域に対して、1年を通して植物の募集を継続的に行い、施設職員や芸術家が協働で造園作業を行った。四季折々の植物を用いた造園によって、2019年度に実施した「ノガミッツプロジェクト」を踏襲する形で、地域の方々から「おすそ分けの花」を募り、庭に植え付け作業を行った。また、施設独自で野菜栽培なども行った。植物を「おすそ分け」していただいた地域の方に、庭でとれた野菜を「おすそ分けのお返し」するなど、地域住民の方々との交流を図った。また、今年度は、中庭のみならず、施設外周（施設玄関前）にもおすそ分けの花を植えた。

「アート作品制作」は、縦2メートル横3メートルの大きな布に刺繍で描き出された巨大タペストリーを制作。刺繍は、児童館の子供たちや凌風学園の生徒さん、このプロジェクトに興味を持っていただいた方々、総勢、90名の方からご協力を得た。刺繍糸は、地元で採取した草花から染めたものを使うなど、芸術家の発想と創作活動に直に触れる機会となり、多くの方々の支持を得られた。

「展示会・発表会」について、各事業の取組状況の記録撮影を行い、冊子化した。当初は会場固定の展示会を考えていたが、コロナウイルスの感染拡大リスクを踏まえ、移動展示会を計画し、実施した。各展示会場にて冊子を配布し、かかわってくださった方、興味を持ってくださった方にこの取り組みの成果を共有した。

### 2 活動の成果（区民、地域に還元されたと考えられること）

当初は、地域住民向けのお披露目会や、公開造園作業を実施するとともに、夏祭りなどの地域行事の会場としても中庭を活用することで、広く事業周知を行う予定であったが、コロナウイルス感染防止において、施設内の開放はできなかった。しかし、地域の住民からのおすそ分けでいただいた植物をもとに当施設の中庭、また新たに施設外周（特に玄関まわり）の造園を行うことで、お

すそ分けの花を外部の人でも見ることができ、施設がより地域に対して開かれたものとの意識が広まった。

タペストリー制作においても子供から高齢者までが心待ちにしながら、実施でき、制作時間が一つのコミュニティーサロンのような空間になっていた。地域住民、施設入居者、施設職員による新たな関係性の構築ができたのではないかと思う。また、その成果をまとめた小冊子は、今後、地域における福祉施設として、地域住民の安心の場所として、広く告知するための広報ツールとして活用できる。

### 3 活動してみたの課題（次年度以降改善すべきと感じられたことなど）

庭の再生とタペストリーづくりを進めていく中で、地域住民の方々の老人福祉施設に対する関心が高まっていることを更に感じた。アーティストの発想力をもって子供や大人、高齢者など世代間の輪が自然と出来上がっていくのを感じた。また、中庭の畑づくりに率先して取り組む高齢者の方もおられ、『生きがい』という視点に繋がったと考える。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、思うように施設開放が出来なかったが、今回制作したタペストリーを地域の世代交流や地域の輪の象徴として広報していきたい。

### 4 今後の活動予定（自立的な活動に向けての取組予定など）

高齢者施設の持っている役割や地域資源としての可能性を広く広報していく。「おすそ分けの庭」を地域に更に浸透させ、地域住民の方々へ開放する機会を作りたい。また、老人ホームという社会資源については、更に地域の理解を得られるように周知し、施設内部を開放したり、事業内容などの学習会などを実施したりすることで、今はまだ若い世代にも高齢化を身近な問題としてとらえられるような活動をしていきたい。

#### 【活動写真】



## 令和2年度 活動報告書

団体名 一般社団法人アーツシード京都

事業名 東九条こどもご近所映画祭 2020

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

これまでアーツシード京都は、自身が設立・運営する小劇場 THEATRE E9 KYOTO がある東九条にて、2018年より「東九条こどもご近所映画祭」を地域の児童館と共同しながら実施してきました。これは映像作家ミシェル・ゴンドリーのプログラムを元にしたもので、その場に集まった人たち（この場合はこどもたち）と3時間で映画を作るプログラムです。本年は、地域の公立学校である京都市立凌風小中学校（以下、凌風学園）にご協力をいただき実施にいたしました。

凌風学園では、児童生徒会に所属する7,8年生10名とともに、9年生を送る会（児童生徒会が中心になって行う卒業生を送るイベント）でのオープニングムービーを作成しました。

実施は放課後に、3日間に分けて行いました。

緊急事態宣言下であった1回目（2月22日）は、企画者でありファシリテーターである久保田氏、松岡氏は、Zoomを用いてオンラインから参加。生徒たちは2班にわかれ、プログラムの説明をうけ、チーム名やそれぞれの役割やストーリー、あらすじなどを考えました。

2回目（3月3日）は、前回決めたあらすじを元に、ストーリーを細かくつくり、映像台本のもとになる構成表作成にあたりました。ここでの意思決定は、前回決めたチーム内役割（司会、タイムキーパー、書記など）を発揮しながら、チーム全員で相談しながら進んでいきました。

3回目（3月8日）はファシリテーター2名がそれぞれチームにつき撮影を行いました。カメラの説明をうけ、撮影も生徒たち自身が行いました。また全員が必ず出演すること、というルールから、撮影も出演も手分けをしながら行いました。1時間という短い時間でしたが、その場で臨機応変に変更も行いながら、両チームともに無事撮影が終了しました。

非常に時間の短い取り組みでしたが、各実施日の間にも、決めきれなかったストーリーをつめたり、撮影に必要な小道具や衣装を用意したりするなど、みな意欲的に参加してくれました。

完成した映像2本は、3月10日の9年生を送る会で無事上映され、卒業生ふくめ、生徒、先生ともに大変楽しんでいただけたと報告を受けました。

3月18日には、子育て支援、子ども・若者健全育成に関わる団体が参画する南区はぐくみネットワーク実行委員会の会議に参加し、取組報告を行いました。

また、実際に現場でともに対応いただいた先生方と、オンラインでの公開シンポジウムを行い、実際に生徒たちの取り組みの様子を紹介しながら、学校現場での映像制作を通じた教育的意義などディスカッションや振り返りを行いました（3月22日）。



## 2 活動の成果（区民、地域に還元されたと考えられること）

新型コロナウイルス感染防止の観点から、当初予定していた形ではほとんど実現できなかったのが正直なところですが、実現可能な方法を探ること  
で、新たに出会い、繋がることのできた地域資源も多くありました。中でも、京都市立凌風小中学校の先生方や生徒さんとの出会いは貴重なもので  
す。

今回関わることとなった中学生相当の年齢層は、一般公募で映画制作を実施する場合には、興味関心が得られる子どもたちや、自身で映画制作に挑戦  
できる子どもたち、つまりある程度偏った子ども同士で集まることがしばしば  
あります。学校という場所は、異なる価値観を持つ人間が集まる小さな社会  
です。その場所でなされる取り組みは、すでに区民の多文化共生社会への  
理解を深めることにつながり、今回の映画制作はチーム創作である点から  
も、その一環を担うこととなったと考えられます。特に、「東九条こどもご  
近所映画」は、一人ひとりに役割（仕事）が明確に存在することから、コミ  
ュニケーション教育、キャリア教育などの観点でも効果があるかもしれませ  
ん。加えて、情報化社会という現在と未来を生きる中で、「自分の手で映像  
制作ができる」という実体験が、公教育のカリキュラムの中では実現しづら  
い部分であるとすれば、それらを地域の小劇場が提供できていれば嬉しく思  
います。

また、オンラインでの公開シンポジウムを開催し、映画制作のプロセス  
や、実際の様子について紹介するとともに、実際に立ち会ってくださった先  
生方にお話を伺いました。これを通じて、子どもたちへの教育的意義につ  
いて考え、先生方にもどういった影響があったのかをお聞きしました。また、  
視聴者となり得る保護者の方々や、あらゆる南区民の方々の中から、子育て  
世代、そして子どもの教育に関心が高い人々に、アート教育実践としての  
「東九条こどもご近所映画」の可能性を届けられたらと考えております。

## 3 活動してみたの課題（次年度以降改善すべきと感じられたことなど）

ひとつは、この映画制作プログラムを知らない地域住民に説明／紹介する際  
の方法についてです。まだまだ芸術や表現は一般的に「特別なもの」と意識さ  
れているかと思います。特別なだけではなく、だれしものが表現者となれること、  
そのことで区民の日常に還元できることがあることを、どう伝えていくのかと  
いう点には大きく課題を感じています。

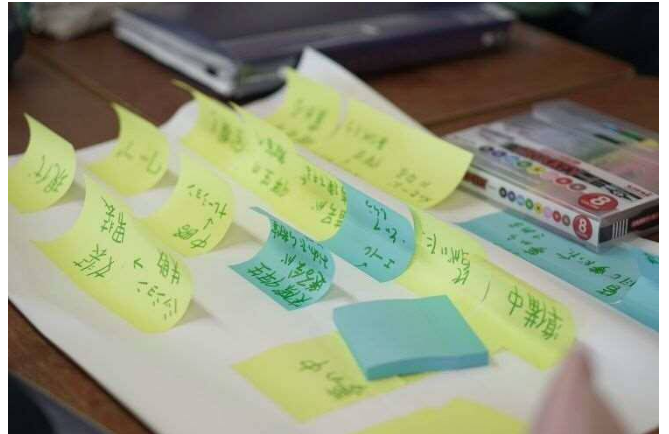
もう一点は、子どもの教育活動に取り組む、既存の団体や個人との繋がり  
の少なさです。地域に根ざしたプログラムを目指す以上、その点は改善していき  
たいと考えています。

## 4 今後の活動予定（自立的な活動に向けての取組予定など）

来年度は、主にはそのターゲット層に向けて、映画制作の地域ファシリテ  
ーター養成講座の受講募集を行います。この講座はつまり、東九条こどもご近所  
映画を企画し、実施できる人材を育成するものです。地域住民の力で、地域の  
魅力を感じ表現できるような映画制作プログラムへの改編を考えながら、我々

がこれまで培ってきたファシリテートのノウハウを伝え、地域ファシリテーターならぬ「東九条こどもご近所映画マスター」の育成を目指します。これにより、他所から来たアーティストにしかできない特別なプログラムではなく、この地域にしかない特別なプログラムとなると考えています。

## 【活動写真】



## 東九条こども ご近所映画2020 @凌風学園 公開シンポジウム

2021年3月22日(月) 14:00~15:00

THEATRE E9 KYOTO  
YouTubeチャンネルより無料ライブ配信  
<https://askyoto.or.jp/info/11008>

主催 THEATRE E9 KYOTO 後援 京都府立東山高等学校  
協賛 京都府立東山高等学校 京都府立東山高等学校PTA  
協力 京都府立東山高等学校PTA 京都府立東山高等学校PTA

THEATRE  
E9 KYOTO

## 東九条こどもご近所映画2020 @凌風学園 公開シンポジウム

日時 = 2021年3月22日(月) 14:00 - 15:00

配信 = THEATRE E9 KYOTO YouTubeチャンネル

料金 = 無料

### シンポジウムについて

地域をつくる劇場-THEATRE E9 KYOTOが2018年度より実施してきた子どもたちによる映画制作プログラム「東九条こどもご近所映画」のプログラムは個人が役割もち、他者と共にひとつの作品を生み出すというプロセスから、「映画制作を通じたコミュニケーションの実践」でもあり子どもの教育プログラムとしても捉えることができます。

2020年度は東九条地域に所在する京都府立東山高等学校での実施となりました。このトークイベントでは、今回の映画づくりについて、実際に立ち会っていた先生方にご意見をいただき教育的観点からお話を伺います。また、日々この地域の子どもと向き合う先生方とのディスカッションを通じて「東九条こどもご近所映画」が、より地域に根ざしたアート教育実践となるための方法を学びます。

### 登壇者

香月広大 - 福田静希 - 岡徳沙紀 - 京都府立東山高等学校

高こうきとし - THEATRE E9 KYOTO - 事務局 松岡味子 - 京都府立東山高等学校PTA/PTA/PTA

### 観覧方法

<https://askyoto.or.jp/info/11008>

こちらのページでTHEATRE E9 KYOTOに接続URLが公開されます。

開始時刻になりましたらこちらから観覧ください。

公開シンポジウム動画は配信後、3月29日(月)15:00までご覧いただけます。

### 東九条こどもご近所映画について

「こ近所映画クラブ」は参加者自身がカメラマンや出演者、美術スタッフなどの仕事(役割)を持ち、タイムやストーリーの決定も話し合いを重ねて、グループで映画制作に取り組むプログラムです。いわばDIYで誰でも映画づくりを楽しむことができます。これを利用して、これまで東九条地域の子どもたちによって、様々なユニークな映画が生み出されてきました。それらを地域の夏祭りや、THEATRE E9 KYOTOにて上映し、「東九条こどもご近所映画祭」と題し、まのあんなで楽しむ映画祭を開催してきました。

この映画祭は、京都府立東山高等学校PTAが主催する活動であり、THEATRE E9 KYOTOは協賛しています。



## 令和2年度 活動報告書

団体名 劇企画パララン翠光団

事業名 演劇塾アートプレイフル事業（こども・青少年居場所づくり事業）

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

コロナの状況下、孤立しやすいこども・青少年対象にアートを地域で身近に楽しむ居場所をつくることを目的とし、2020年9月から2月までの月2回、アーティストによる多様なこども向けワークショップを行った。

#### 9月

9月13日（日）みんなで絵をかいてみよう①

講師 務川智正 井口峰花

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者8名

9月27日（日）みんなで絵をかいてみよう②

講師 務川智正 井口峰花

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者8名

#### 10月

10月4日（日）みんなで演劇をつくろう①

講師 務川智正 松岡咲子

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者6名

10月11日（日）みんなで演劇をつくろう②

講師 務川智正 松岡咲子

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者6名

#### 11月

11月8日（日）みんなで小道具をつくろう①

講師 務川智正 深津尚美

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者12名

11月22日（日）みんなで小道具をつくろう②

講師 務川智正 深津尚美

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者11名

#### 12月

12月6日（日）みんなでダンスをしよう①

講師 務川智正 伴戸ちかこ

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者10名

12月20日（日）みんなでダンスをしよう②

講師 務川智正 伴戸ちかこ

PM1：00～4：00 上鳥羽北部いきいき市民活動センター 参加者5名

#### 1月

1月10日（日）あさむおじさんの大道芸ワークショップ①

講師 務川智正 剣崎あさむ

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者10名

1月24日（日）あさむおじさんの大道芸ワークショップ②



講師 務川智正 剣崎あさむ

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者5名

2月

2月11日（木）もんちゃんのお芝居づくりワークショップ①

講師 務川智正 文字ことみ

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者7名

2月21日（日）もんちゃんのお芝居づくりワークショップ②

講師 務川智正 文字ことみ

PM1：00～4：00 南青少年活動センター大会議室 参加者8名

今年度はじめてのアートプレイフル事業で、コロナ禍で参加者の安全・安心をつくるためにも、広域で宣伝するのではなく、より身近な児童館からのつながりで参加者を集めた。そのような状況下ではあったが、参加した小学生たちには、身近な場所で、気楽にのびのびと参加してくれた。リピートするものもあり、このコロナ禍でも文化的居場所になった。

## 2 活動の成果（区民、地域に還元されたと考えられること）

今回の事業で、児童館を通じたつながりがより深くなり、今後さらに、新たなこどもの活動へとむすびついたこと。区民、地域に対しては新たな文化的居場所をつくることのできた点で還元できていると考える。

## 3 活動してみたの課題（次年度以降改善すべきと感じられたことなど）

コロナ禍もあり、情報の拡散は難しいが、よりニーズを必要としているひとたちに、情報のひろげていくこと

## 4 今後の活動予定（自立的な活動に向けての取組予定など）

2021年度も秋口から、継続したアートプレイフル事業とともに、春からいろいろなイベントでのこども対象の演劇ワークショップをする。

### 【活動写真】



## 令和2年度 活動報告書

団体名 特定非営利活動法人 happiness

事業名 ハピネス子どもの居場所づくり事業

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

#### ■ハピネス子ども食堂

開催日数 42日 延参加人数 1283人 スタッフ 422人

#### ■フードパントリー実施回数 48回 対象世帯 7世帯 21名

#### ■クリスマス会の実施 参加人数 136人

コロナ禍による開催内容の変更（お弁当持ち帰り）や休止などもありながらなるべく子どもたちとの接点がなくならないよう SNS で連絡を取るなど意識して活動しました。緊急事態宣言下における精神的な不調や、家族間、学校での悩みなどを聞く機会もありました。また、母子世帯からの支援要請もあり、仕事や収入がなくなることについての相談を受ける機会もあり、子ども食堂が福祉の窓口として認識されつつあることを実感しました。

また、持ち帰りのお弁当に変更することで、家族世帯分を希望するケースや、普段子ども食堂に参加するのが億劫だけれど支援を必要としている家庭があることが浮き彫りになりました。

クリスマス会においては、子ども食堂を利用したことのない人にも参加してもらえるような内容として、パントマイムショーや絵本の読み聞かせ、ワークショップなどを実施し、初めて参加してくれた保護者と子どもたちが7組いました。

### 2 活動の成果（区民、地域に還元されたと考えられること）

唐橋学区、南大内学区からの参加者が9割を超え、地域の子育て世帯への一定の還元は行われていると思います。理由としては、参加対象者を母子家庭や貧困世帯だけに限定しておらず、保護者のレスパイトを目的とした利用も可能としており、開かれた子どもの居場所づくりを実施してきました。子どもだけでの参加もでき、食事や大学生による学習支援の機会も用意しております。

また、クリスマス会において、絵本作家の竹山さんによる講演会もあり、自閉症児への理解促進の場となるよう絵本の読み聞かせと里親についての講演会も実施しました。より子育てがしやすい地域づくりを目指し今後もイベントの企画を実施していきたいです。

南区内における子ども食堂ネットワークも構築され、食材の大量寄付をいただいた際には区内2箇所の子ども食堂へも食材提供を行い、ハピネスが窓口となり他の子ども食堂への支援も実施することができました。子ども食堂を実施したい方のボランティア申し込みや相談対応など、水平展開に向けても活動できた1年でした。

### 3 活動してみたの課題（次年度以降改善すべきと感じられたことなど）

コロナ禍における活動については今もなお課題があります。個々の子どもたちとボランティアが関わっている今の運営では、オンラインで子どもたち全員と繋がることには切り替えることができず今後の課題です。

また、まだハピネスに参加したことのない子どもはたくさんいることから一人でも多くの子どもたちに居場所があることを知ってもらうための学校との連携をとりたいです。

また、今まではボランティアとして誰でも参加できる状況でしたが、非常事態宣言時には徒歩や自転車で参加できる近隣のメンバーに限定したり、学習会のために大学生のみに限定したりとスタッフ確保に苦勞もしました。不安定な子どもたち同士での喧嘩などに対応したスタッフがトラブルに発展したことなどもあり、今後のことも考え、ある一定数の協力してもらえるスタッフの確保と、スタッフに向けての研修会も実施する必要性を感じています。

### 4 今後の活動予定（自立的な活動に向けての取組予定など）

カフェ運営における事業収入の確保・特例認定取得（12月に取得済み）を軸にした SNS などによる広報発信と寄付の増額を目指す。

来年度には、新たな参加者獲得に向け毎週の学習会・子ども食堂を実施していきます。レストランプロジェクトと題し、子どもたちの自炊力の向上と食育を兼ねたプログラムを実施したいと思っています。最終回には子どもたちが料理をし、地域の大人に食事を食べてもらうといったサプライズも予定しています。子ども食堂に新規参加者が増えるようなイベントの企画運営も実施してまいります。

#### 【活動写真】



## 令和2年度 活動報告書

団体名 一般社団法人 京都わかくさねっと

事業名 少女の居場所「わかくさカフェ」南区事業

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

happiness\*café とコラボして少女の居場所事業を開始し、今年度は13回開催、延べ53名の少女と44名のスタッフが参加しました。中学生をメイン対象とし、土曜日夕方より、不定期で一緒に食事作りをしたり、大学生ボランティアに勉強を見てもらうなどの内容で実施しました。食事作りに関してはメニューから一緒に考え、買い出しや片付けまで中学生たちと一緒に行いました。中学生の中には家庭に居場所がないと感じている子や、不登校となっている子などがおり、その都度話を聞いたり、相談にのるといったことも並行して行いました。

12月にはアンガーマネジメントの講師を招き、10代向けのアンガーマネジメントゲームを実施し、アンガーマネジメントについて学ぶ回も設けました。

### 2 活動の成果（区民、地域に還元されたと考えられること）

中学生の中には家庭に居場所がないと感じている子や、不登校になってしまっている子、ステップファミリーで親との関係に悩んでいる子、学校での友人関係がうまくいかずに悩んでいる子などがおり、家庭や学校以外の居場所を作ることができたことは、少女たちにとっても逃げ場となっていたと思われる。また、その都度話を聞き、場合によっては助言を行うことで、相談できる場や人がいるということを少女たちに認識してもらい、抱えこまずに相談するという癖作りができてきたと思われる。さらに、メニューを一緒に考えたり買い出しや食事作りを一緒に行うことで具体的な生活スキルの向上にもつながったと考えられます。少女たちの中には食堂で一緒に作ったものを家で実践する子もおり、家庭生活自体の向上にもつながっていると考えられます。

### 3 活動してみたの課題（次年度以降改善すべきと感じられたことなど）

今年度は初年度ということもあり、試行錯誤的に不定期で開催をしました。よって少女たちに必要な頻度での開催ができていなかったのではないかとこの点があげられます。また、勉強をみる際、こちらに教材の用意がなかったために手持ち無沙汰になってしまったということがありました。少しでも教材を用意することで、学習意欲の向上にもつながれば良いと感じました。また、初年度ということであまり広報ができず、固定参加者となってしまっていた



め、今後は捕捉していく方法を考えていく必要があると感じました。

#### 4 今後の活動予定（自立的な活動に向けての取組予定など）

開催頻度を増やしたり、定期的開催をしていくことで居場所としての機能を向上させたいと思います。また、学習意欲向上のため、教材を用意するなど少女たちが勉強をしたいと思った時に対応できる状況を作りたいと思います。

また、講師などを呼んだり、様々なワークショップを行うことで少女たちの興味の幅を広げたり、気分転換の方法を提供することができたらと考えます。広報については、SNSを活用したり口コミをしたり、子ども食堂と連携するなど、困難を抱える少女たちに手が届くような仕組み作りをしていきたいと思ひます。

#### 【活動写真】





## 令和2年度 活動報告書

団体名 サンケイデザイン株式会社

事業名 京のごはん「南区お弁当マルシェ」

### 1 取組内容（今年度取り組んだ内容を具体的に）

事業採択後、南区内の会場を探してお弁当マルシェを開催予定でしたが、11月下旬以降にコロナ第3波が到来したことで飲食店への参加要請がしにくくなりました。一旦は事業中止も考えましたが、密を作らないオンラインでの開催（事前に注文をしていただき利用者がお店に取りに行く）とリアル開催（会場でのお弁当販売）を3月27日（土）28日（日）の2日間に併催することとなりました。この決定が2月後半になりましたので、会場選定と参加店募集の開始が遅れて心配したのですが、南区まちづくりアドバイザーのお力添えでレンタルスペース九条湯を速やかに確保することができました。また、南区地域力推進室から京都信用金庫九条支店をご紹介いただき、参加飲食店の確保に大きなお力添えをいただきました。

立ち上げが遅れたこともあり、話題性を高めようとオンラインマルシェの方は「裏メニュー」というふだんはお店で提供されていないメニューに限定して出品していただきました。18店の飲食店にご参加をいただき、そのうち3店はレンタルスペース九条湯でのお弁当マルシェにも参加していただきました。販売数は全店を合わせて71食と振るいませんでした。これは準備や告知に十分な時間が取れなかったことでもあります。裏メニューという考え方が飲食店によく理解されず、お店によっては通常のメニューに近いものを出品されて消費者に魅力的に映らなかったことも一因であったと思います。

しかし、次項に記しましたように、販売数では測れない部分で、南区の飲食店、消費者の双方に元気をもってもらえる機会になったとは思っています。

### 2 活動の成果（区民、地域に還元されたと考えられること）

#### ○南区の飲食店に対して

「何かやらないといけないと思っていた」というお店の声に代表されるように、コロナ禍でダメージを受けている地域の飲食店に新しいメニューを消費者（区民）に提案してもらえる機会を提供できたと思っております。またこの企画を通じての販売数は報告の通りですが、当方を介さずに直接お店に電話をして買いに来られたお客様が多数おられたお店もあり、当方で把握している数量以上の販売があったこと、また売上以外での広告効果（サイトへのアクセスなど）も含めて南区の飲食店に元気になってもらうという目的はある程度達成できたと思っております。

#### ○南区民（消費者）に対して

レンタルスペース九条湯での対面販売の日（3月28日）は荒天であったこともありお弁当の販売数量は振るいませんでしたが「おもしろいこと考えるな

あ、次はいつやるのん？」というお客様のお声に代表されるような期待感、コロナ禍で閉塞した空気感に「おいしい」という五感（味覚）で風穴をあけるキッカケになったのではと思っています。また直接的な販売につながらなかったとしても予約受付期間中3日間で約8,000のページビュー（特設サイトへの延べ訪問者数。但し下京区併催事業分を含む）があったことを考えると区民の関心はかなり高かったと感じています。大勢の人と人（区民と区民）がリアルで触れ合える機会をもつ事業するにはコロナ禍が収束しないと企画が難しいとも思っています。

### 3 活動してみたの課題（次年度以降改善すべきと感じられたことなど）

○企画段階、募集段階、実施段階それぞれで感染の波がどこにくるのを見通せず（企画段階では波が低くても実施段階で高いとか、その逆とか）コロナ禍の収束が見えないとなかなか人を集めて料理を提供する事業は難しい。

○「裏メニュー」というコンセプトの理解をもっと図る必要がある。飲食店対しても消費者（区民）に対しても。「おもしろい」とも言ってもらったがその割合をもっともっと高めたい。フードロス削減などにも資するアイデアはあるので。

○持続可能な形で運営するには、事業者である弊社も適正な利益を生める事業形態にしないといけない。

### 4 今後の活動予定（自主的な活動に向けての取組予定など）

3で挙げた課題をどうすればクリアするか考えます。（コロナ禍については収束を待つしかありませんが）

#### 【活動写真】

